

ちよいワルオヤジの古代史エッセー
第1回「古代史を楽しんで」—あっ、そうだったのか！

大和川 一路

1. 私の古代史入門——酒を酌み交わしながら
2. 古代国家の形成——高3で学んだ古代史
3. 韓流時代ドラマは面白い——さすがエンタメ国
4. 小説で古代を遊ぶ——面白い古代史小説
5. 韓国古代史旅行——韓国ドラマの聖地巡礼
6. 奈良古代史旅行——大和は国のまほろば
7. 九州古代史旅行

はじめに

「厄介事も多い人生だったが、ほどほどの幸せとともにひっそりと・・・」こんな気分でいたところにまさかの疫病と戦争。マスクをしていないといまだに自粛警察に睨まれます。

昨年春に福岡に移住。名古屋で最後に叔父さん、叔母さん、従姉妹全員に会えました。「竹ちゃん、は“浮いたかひょうたん”だもんね」叔母さんの父への送る言葉が妙に残ります。

尋常高等小学校卒、工員として一生車両製造、競馬・麻雀、大酒飲み、映画・歌舞伎・ドラキチ、定年後は万里の長城・ピラミッドなど旅行三昧、薬草研究。ゾッとするほど遺伝していることにありがたいも哀しくもあり。遺品整理でアルバムを見れば遊び人そのもの。

友達ができるかな？と古稀を前にして不安もあり、「バッテンそげな～」と言う人たちと出会えるかな？という期待もあり。誤算はコロナ自粛で居酒屋が閉まって人に会えなかった。

2021年秋「奈良大和四寺巡礼」なるツアーで田主丸、田川、宇美の方と出会う。

音楽好き、本好き、絵画好き、旅好き、歴史好き、お酒は適度。ありがたや、ありがたや趣味が合う。好奇心も向上心も盛んなる『80歳の壁』を瞬間読破した年齢の方々です。

共通項は、嫌事はしない。

私は体系的に勉強したわけでもなく、深く掘り下げて仮説を自説にする努力をしたわけでもありません。考古学上の発見が続いていますが、説としては語りつくされた感を抱いております。あくまでも私の古代史好きは楽しむだけであり、楽しんだ10年を書き留めただけです。

1. 私の古代史入門——酒を酌み交わしながら

瓊瓊杵尊、木花開耶姫、饒速日命、神日本磐余彦、讚珍濟興武、役小角——誰ですか？
雲太和二京三、邪馬臺、三角縁神獸鏡、欠史八代、益田岩船、漢風諡号——何ですか？
会社で一緒に働く仲間に「全部答えられたら10回はタダで居酒屋に招待します」
今でこそこんな大口が叩けるが、還暦前までは私自身何も答えられなかった。

50 年前、高校の先生は歴史がこんなにも面白いことをなぜ教えてくれなかったのだろうか。高一の時、期末テストで小倉百人一首を試験に出すから暗記してこいと言われましたが、年賀状配達バイトで暗記する時間などなく、ひどい点数を取りました。今思えば、国語と歴史の融合授業をやってくれていたら興味も生まれただろうに。

「あをによし奈良の都の」とか「大和は国のまほろば」とかの意味も分からず、歴史的な背景も分からず百人一首は忘却の彼方。

聖徳太子の十七条憲法は、

1. 和を大切にせよ
2. 仏教を敬え
3. 天皇の命令に必ず従え

と記されているようですが、「雲太和二京三」なる言葉に出会い、出雲太郎、大和二郎、京三郎の略で、十七条憲法の順番が、いにしえの三大建築物の大きさの順番と同じであると知りました。

出雲大社「和の精神」、東大寺大仏殿「仏教」、京都の大極殿「天皇」。うっわそうだったのか！並べてみると一目瞭然、必殺の記憶法ですね。

暗記、暗記で興味を無くした歴史が面白くなるのは 50 年も後のことでした。

古代史の勉強は 2006 年 1 月飛鳥川神矢さんとの出会いから始まります。

ある会社が上場を目指しているので、その準備のためにファンドからの誘いで 2005 年 10 月に私はその会社に入社しました。マザーズへの申請書類を毎日 10 時間読みっぱなしが三か月続きました。年の瀬トップから「上場断念。T 社からの出資に切り替え」

驚天動地とはこのことだ！がっかりする人、喜ぶ人、人生何が起こるか分からない。

そして T 社からは飛鳥川神矢さんが専務(その後、社長)として入社されました。

以降、今日まで 15 年以上古代史の教えを受けており私にとって大師匠様です。

実名はばかられる故、師の古代史ペンネームの「飛鳥川神矢」とさせて頂きました。

当時も会社の飲み会は盛んで、上司にお酒を注ぎに行くことなぞハラスメントでもなく当たり前のことで誰も文句は言いません。ただ注ぎに来た女子に訳のわからぬ古代史の話を延々とするのでみんな閉口していました。ニニギノミコト、コノハナサクヤヒメ、ニギハヤヒ、カムヤマトイワレヒコ、サンチンセイコウブ、エンノオズヌなど聞いても分かるわけありません。この辺りは世のおじさんが注意せねばならぬところです。数年間興味もわかず時は過ぎてゆきました。

2010 年は平城京遷都 1300 年の年です。この年に飛鳥川師匠から『藤原氏の正体』関裕二を入門書として頂き古代史を楽しむきっかけとなりました。

これを読めば『蘇我氏の正体』『物部氏の正体』も読みたくなります。

出会いから 5 年後にやっと興味が持て、既に 58 歳になっておりましたので定年後のお楽しみです。とりあえず、「古代史関係の本を 100 冊読む」ことを目標としました。

読めば読むほど雑学が増え、師匠の知らない知識を増やして今日こそは飲み会談義で凌駕してやろうと思い、闇雲に読んで得た雑学をひけらかし「おっよく知ってるね」と言われるとこれがまた

嬉しい瞬間でした。そして、晴れて古代史ペンネームを授かりました。「飛鳥寺物造」(あすかであらぶつぞう)と言います。

前職は部品メーカーにおり、会社で“ものづくりの会社では・・・”と仕事の中で発言していたからでしょうか。飛鳥寺の仏様はあまりいい顔とは思いませんので B 級ネームではありますが仕方ないですね。その後、師匠に肉薄した時点で「飛鳥寺物造」改め「大和川一路」と大きなネームをいただき一本立ちしました。

飲みながらのお楽しみは、友人や部下に古代史関係の本を進呈して完読したら感想を聞き、師によって古代史ネームを与えることでした。山辺古道、五十鈴川琴、大三輪三大、鎮墓獸一、木花一絵、天野香山、高御座ゆか、伽耶ちずるが名を与えた弟子たちです。山辺の道、伊勢神宮、大神神社、武寧王陵、京都堂本美術館、飛鳥甘檜丘、金海亀旨峰の地など訪ね歩いた仲間たちです。実名を公表できないのが残念です。なを古道氏は小生の弟子。師と考えたネームの候補(談山合一、味美可美、埴輪由多加、天馬塚一馬、高日向千穂)はまだまだ在りますが、会社勤めを辞めた今、そんな遊びをする機会はなくなりました。

58 歳から始めた乱読で知識はドンドン増えますが、悲しいかな日々忘れてしまいます。

でも、こんな時間が良かったなと思えることは、師の話を繰り返し繰り返し何度も何度も聞き、そして自分も繰り返し話をする事でピースが埋まっていき全体像が分かりかけてきました。同じ話をする酒飲みの習性か、あるいは年を重ねてくどくなったのか両方が奏功したのでしょうか。

古代史への入り口は困難です。漢字が読めない。和風諷号で腹がもやもやしてくる。

初心者ですから以下のように考え古代史ノートに写真を貼って作って行きました。

1. 解説本だけではなく小説も読む
2. 韓国時代ドラマを見る
3. 現地に行く

ある日、飲みながら師匠が「邪馬台国の場所を探すより、古代の日韓の交流の方に興味が向いてきた・・・」とボツと言ったことが頭に残り、ある時から私の邪馬台国への興味は薄れて行き焦点は古代日韓関係史へと移って行きました。

以下の文章は「古代史ノート」から多く転載しました。古代史は読んだ本の量と質で理解が深まっていくと思いますし、詰め込まないと横には広がっていきません。時代の流行もあるし、考古学や遺伝子学や測定法の進歩で古くなる説もあります。

とんでもない本を手に取り“説”に興奮したこともあります。そのうちに騎馬民族も成り代わり説も分かってくるものです。

古代史を面白く語る人に出会って、いい本に出合って、そして行ってみないと興味が続きませんね。私にはラッキーが続き興味の対象も増え好奇心は衰えていません。

2. 古代国家の形成——高3で学んだ古代史

高校の教科書は手元に一冊も残っていませんが、資料編で『資料日本史』東京法令出版昭和45年1月10日改訂版だけがあります。大学受験で暗記しまくった思い出が詰まっており捨てがたかったのでしょう。この原稿を書く前に開いてみました。

少し抜粋します。おかしい表現がありますが、私の入力ミスではなくその通りに書き写したことを念のため申し添えます。(〇〇)は私の独り言です。

第二章 古代国家の形成と大陸文化の摂取(一から八まで8ページしかない！)

- 一 部落国家の分立
- 二 倭の奴国
- 三 邪馬台国
- 四 朝鮮半島への進出
- 五 大陸との交通
- 六 漢字の伝来
- 七 仏教の伝来
- 八 古墳文化 九から三十まで省略

一 部落国家の分立

漢書地理志から一行記載 (部落の国家か！今はクニかな)

二 倭の奴国

後漢書東夷伝から三行 倭の国々では王・大夫・奴隸というような階級の分化が生じていたことがわかる。(なんだこれは？)

三 邪馬台国

魏志倭人伝から二十行

女王の都する所は筑後山門郡とメモが残る。(先生がそう言ったのでしょね)

漢書に百余国と記されていたわが国が次第に大和朝廷に統合されて三世紀頃には三十国ばかりになっていたことがわかる。…魏使が北九州の伊都国まで来ていた。…呪術をよくする卑弥呼の祭政一致の政治形態および他の国々が男王なるにこの国は女王との母系制より父系制への過渡的な社会体制は注目し値する。邪馬台国の所在については九州説と畿内大和説と論争されているが、…大和川流域から魏鏡が多く発見され北九州はいたって不足である。…文献に出る其の余傍国の音名が大和地方付近例えば「キ」国は紀伊、「ハリ」国は播磨、「イガ」国は伊賀、「ミ」国は美濃等後世の国名と比定されうる。…(よくある古代史のなんちゃって説と同類ですかね。50年前の歴史教科書は諸説の一つだったのだ！50年後、狗邪韓国と伊都国に限って「到」の字だから魏使は伊都国に常駐し、

一大卒は伊都国で常治していたのでここで外交をした。卑弥呼は王に為りてより以来、見る者少なだから魏使とは会わない。シャーマンは町中には住まないし、怡土城が築かれたように地政的条件が備わっているのが高須山に卑弥呼の宮殿があったとの説を知り理にかなっていると思いました。確かに魏使が武器、銅鏡、衣類、大事な文書や印など重たい物を大八車に載せて纏向まで行ったとは普通の人は思いませんよ。邪馬台国は北部九州のどこかでしかない・・・)

四 朝鮮半島への進出

高句麗好太王碑銘から十行 四世紀の後半、倭国はかなり大規模に朝鮮に出兵し、当時南下する高句麗の軍と激しい戦いをまじえている。碑文は王に有利に書かれているが、倭の積極的なことが十分うかがえる。(積極的？そこじゃないでしょう！)

五 大陸との交通

宋書倭国伝から六行 解説には高句麗と抗争した倭は半島における立場を有利にし、かつ既得地位を確保するためにしばしば朝貢している。・・・興・武などの五王は問題はあるが、次の通り比定されている。

讚＝応神か仁徳、珍＝反正、済＝允恭、興＝安康、武＝雄略
(比定のことよりも表題の交通がどういう意図かな？意味かな？)

六 漢字の伝来

隅田八幡宮人物画像鏡銘文の二行 応神天皇の時千字文、儒学の伝来があつて文字による教育が始まったことを物語っている。・・・帰化人が多数渡来すると、彼らの手で次第に文字が使用されるようになった。・・・やがて日本人の間にも普及するようになった。・・・その実情を語るものとしては四世紀後半の石上神社七支刀銘文、五世紀前半の船山古墳出土の太刀銘がある。(教育が始まった？何を生徒に伝えたいのかわかりません)

七 仏教の伝来

日本書紀欽明天皇条から八行 仏教は儒教伝来より遅れること一世紀にして百済を通じて伝来した。・・・百済は四世紀後半より高句麗に圧迫され、中国の南朝に入貢して援助を求め、その結果大陸文化の流入が目覚ましく、仏教の伝来もこの時になされた。また百済は地理的にも近い日本に応援を求め、倭の勢力圏である任那六郡も割譲してもらった代償として、中国より受け入れた文化を日本に再輸出した。これが仏教の日本伝来の経緯である。

(高校三年生としてはあっそうですかですね。このあたりで文句百曼陀羅言いたくなる。ここで初めて日本書紀が登場。最近聞いたことは北周の武帝が北斉を滅ぼし、北斉で栄えた仏教文化や白玉仏はことごとく破壊された。武帝の廃仏で難民は韓半島を経由せず倭国にやってきて、仏教の原型が伝わり飛鳥仏教として花開く。東アジアのことを勉強しないと再輸出なんてことに！)

八 古墳文化

古墳の分布と前期・中期・後期の分類と巨大古墳の紹介のみ

弥生文化の後に栄えたのが古墳文化で、…古代国家としての実質的内容は五、六世紀にかけて次第に整えられていった。朝廷すなわち中央勢力の実力の基礎となったものは、おもに大陸の進んだ知識・技術であって、これは朝鮮進出以来の積極的な文化摂取の成果であった。古墳文化は、このようにして獲得された豪族層の文化力と生活水準の高さを示すものである。…わが国独特なのは前方後円墳である。…後期古墳は群小墳となった。その理由は人口増加と農地必要や仏教伝来による火葬法を入れようとするのが考えられる。その始めと思われる大和の石舞台は上円下方墳の最大のものである。

(嘘と真の境目がどこなのか知りたいですね。歴史を文化で説明するのか。盛土がないのに上円とどうしてわかったのだろうか？どの文献だろうか？教科書は最高の読み物！全科目とっておけば良かった。)

3. 韓流時代ドラマは面白い——さすがエンタメ国

◎『チュモン(朱蒙)』 高句麗(BC37～668)の建国物語

朱蒙には二人の奥様がいます。

一人目のイエソヤは、古朝鮮の流民を組織しタムル軍を率いるヘモスと河伯族の娘ユファの間に生まれる。息子がユリ(二代王)で孫がムヒュル(三代王)『風の国』

十九代の広開土太王『太王四神記』の時、隆盛を極めました。「高句麗好太王碑」

二人目のソソハは、チュルボン(卒本)の大商団ヨンタバルの娘です。

ソソハとの間にピリュとオンジュが産れる。王位継承で揉めることを回避すべく、ソソハの息子たちは南下し兄ピリュは建国に失敗。弟オンジュは馬韓の地に十済を起し大いに発展し百済となる。これが二つの百済説につながっていくわけですか…。

朱蒙は組織された軍と商団の巨大な富と膨大な情報を受け継ぐ。設定がいいですね！

神女ヨミウルも登場し、その神権は時に王権をうわまわることがありました。ここにも卑弥呼がいたのか。ヨミウルは朱蒙に三足鳥を見た。三足鳥は高句麗のシンボルマーク。建国の時ヨミウルが三足鳥の旗を作った。檜原神宮で買ったお守りは三足鳥。三足鳥は八咫鳥。始祖物語は似てくるものなのかあるいは真似して創るものなのか。

◎『太王四神記』 高句麗

冬のソナタのヨン様ペ・ヨンジュンが広開土太王。2007年に放映。二つの百済説の延長ですね。西百済(山東半島)を攻める場面があり、これは高句麗史を韓国史としてドラマをつくっているのだから中国は激しく怒る。外交問題に発展して中国で放送禁止

◎『善徳女王』 新羅

新羅の建国神話も天から卵が六つ降ってきて始祖パク・ヒョッコセが産れた。朱蒙も扶余の地で卵から孵化したという物語があります。卵生の天孫降臨神話が多いですね。

さて、本題ですがこのドラマには金春秋が登場します。日本書紀に登場する後の新羅 29 代武烈王です。「聖骨・真骨の骨品制度」(父母がともに王族である聖骨で天降三姓の朴・昔・金から国王を選んでいた)の中でなぜ真骨の金春秋が王位につけたのか？

金春秋は倭にも高句麗に唐にも行っているスーパー外交官で日本書紀大化三年「春秋は人質として止まった。春秋は容姿美しく快活に談笑した」とベタ褒めです。人質かどうかはわかりません。さて、善徳女王は若き頃トンマンといい、女であることを隠し花郎(ファラン)の一員としてユシンに鍛えられます。伽耶出身のキム・ユシンは後に大將軍にまでなり女王になったトンマンを支えます。時代背景は伽耶が新羅に併合された後ですが、伽耶の人々の苦難も描かれています。韓国の方が書いた歴史本には「その集団を支えた花郎道精神は統一新羅を樹立する礎になった。花郎の精神と働きを象徴するように、精神的に勝っていた新羅が勝ち、百済は滅ぶ」とあります。

高麗時代になって墮落していったそうですが、日本の武士道は脈々といきていますね。

三韓一統がなったのはユシンの貢献大です。このドラマ 62 話を見終わると、これでは善徳女王ではなく美室物語だなと思ってしまいます。実在はしたらしくネットをのぞいてみると、『ミシル』は「見目麗しく知性も備えたミシルはありとあらゆる媚態術と性の技芸を仕込まれていた。皇太后や後宮を輩出してきた名門の出。世界文学大賞を受賞し、韓国で大ベストセラーを記録した官能歴史ロマン」とある。嘘と真の境目が全く分かりません。ドラマですからありえない筋立てがあっても目をつむりましょう。水戸黄門が諸国を漫遊して悪を懲らしめたドラマと同じなのでしょう。

しかし、不確かな記憶で私が間違っているかもしれませんが、善徳女王が犯罪人を(竹島)に流罪送りをする場面があったように思うのですが、プロパガンダなのかな？
興味のある方は『善徳女王の真実』が慶州歴史旅の参考になるかもしれません。

金官伽耶のことなら『キム・スロ』、百済ことなら『ソドンヨ』、渤海のことなら『テジョヨン』といういろいろなドラマがありますが内容はもう忘れてしまいました。

李氏朝鮮のことなら『ホジュン』『チャングムの誓い』『王になった男』『馬医』『トンイ』『イ・サン』など見ましたが、この何倍も放映されています。食傷気味になりもう見ることを止めました。後でなんか既視感があると思った『王になった男』は黒沢監督の『影武者』のリメイクと知りました。

4. 小説で古代を遊ぶ——面白い古代史小説

○黒岩重吾『紅蓮の女王』

黒岩重吾は大衆小説欲望ドロドロと思い込んでいたら、これがなんと大違い。体が火照るような小説です。炊屋姫も三輪君逆も鞍首止利仏師もみんなルビがふってあるので助かりました。どうしてこの本を最初に手に取ったのか思い出せません。『落日の王子』蘇我入鹿、『天の川の太陽』天武天皇、『茜に燃ゆ』額田王、『天風の彩王』藤原不比等など人物のイメージができて、飛鳥に 30 回も通うことになりました。

○井上靖『額田女王』

さすが大文豪と思いました。

○黒須紀一郎『霸王不比等』

伝奇小説。三部三冊の帯のキャッチコピーは次のとおり。

「第一部」 父・鎌足の出自の謎を追い、山の民と諸国を経巡る若き不比等！

「第二部」 乙巳の変、白村江、壬申の乱。混沌の倭国を襲う大唐帝国の陰謀

「第三部」 都、国史編纂、律令制定。「日本」を生んだ偉大なる男の生涯！

とんでも説の最高なるもの。あまりに強烈。よくこういう本が書けますね。

“伝奇”とは言うものの鎌足、不比等の時代に倭国で起こったことは東アジアの激動の歴史と重ねて理解すべき。そんな視点を与えてくれました。

○『邪馬台国論争もの』

本、雑誌、新聞、ネット。古代史をかじりかけた私も先輩と同じような本に触れ、九州説と畿内説論争を知ることになりました。しかし、私自身が調べたわけではないし、話すことは全て本に書いてあったこと。研究者じゃないのだから今では深みにはまらず楽しむ心境です。

『まぼろしの邪馬台国』の島原に行って目を閉じ有明海を眺めてみたり。ネットにあふれる情報の中で、これは『邪馬台国の秘密』で神津恭介の推理そのままではないかとクスッと笑ったり。宮内庁が陵墓指定を解いてくれたら泡を飛ばす口論もなくなっていくでしょう。あと 50 年は無理かな。直近読んだ本は師から頂いた『邪馬台国の全解決』孫栄建。筆法によるアプローチが新鮮でした。孫さんの言い分は5ページの邪馬台国で少し触れました。誰か早く、拠点を特定して決着に持ち込んでください。

○山岸涼子『日出処の天子』

世の古代史おじさんの読書歴には登場してこない本かと思いますが、内容は靈的で厩戸王子と蘇我蝦夷との疑似恋愛も描かれています。言葉では言いあらわせない超絶作品。山岸涼子のマンガ。太子を崇拜している友人に薦めたら「そんなおぞましいものは読まない」と一喝で終り。

5. 韓国古代史旅行——韓国ドラマの聖地巡礼

韓国時代ドラマの影響か、日本の古代史の地よりも先に韓国の地を巡りました。学術的でも学問的でもなくお遊び旅行です。昼は歴史旅行、夜はカジノです。類友ですね。

酒好き、古代史好き、ルーレット好きが三人も集まりました。師ともう一人は最初の会社でお世話になった大先輩の鳥山憲二氏で『霸王不比等』を貸していただきました。

以下しばらく、古代史ではなくルーレットのことでお付き合いください。

団塊の世代は麻雀の得意な方が多いので、ルーレットの倍率の計算には苦労しません。

確率論、賭け方の作戦など空港のラウンジでいつも検討会をしていました。いわゆる飲みながらの結団式で、三人寄れば安倍の文珠院「フラワー」「ハイタワー作戦」「先賭後賭混在作戦」「小判ざめ戦法」「遠交近攻の策」など他人からはアホかと思われるかもしれませんが真剣に考えたものです。“カジノに行くなら 100 万円目指せ”が氏の教え“

一晚〇〇万円と決めて、止める時間も決めて、ホテルに戻ったら反省会と明日の打合せ。

ソウルと釜山にはありますが、慶州にカジノはないのです。韓国には 17 か所あります。

ヒルトンのセブンラックは落ちついたカジノでしたが、訪韓中国人が増えるにつれコロナ前にはすっかり廃れてしまいました。唾を吐く、横入りする、大声でしゃべる。

念の為、私たちは昼の観光がないのでそれに代わる夜の遊技です。賭博ではありません。

さて、**済州島**にトケビ道路を見に行きました。確かに下り坂なのに玉が昇っていきます。

日本の高速道路にも錯覚する所はありますね。次に「三姓穴」なところに行くと“耽羅の国を創始した三神人が地面から飛び出てきた聖地”とあります。この地の三姓は高さん、良さん、夫さん。韓半島の卵生・天孫降臨とはちがうなあ。違う国だったんだ。

金海市 韓国古代史旅行の初めての訪問地です。

天から六つの金色の卵が降ってきた。その一個が瞬間に大きくなり十五日目に即位した。諱名を首露とし国を加耶とした。あとの五つも孵って五人の童子が現れ五つの伽耶国の大王になった。金の卵から生まれたので姓を金とする。六つの国が伽耶連合国であり、それを統合したのが金官伽耶であり、始祖が金首露である。

神話であろうが、なるほどなです。金首露王陵と金首露王妃陵を見物する。首露王は 158 歳で亡くなった。神武天皇より長生きしたのか。王妃はインド・アユタの王女で金海まで船でやってきた。許黄玉という。ニニギがコノハナサクヤヒメと結婚した話と構造的に似ているそうです。歴史に詳しいことを条件にたのんだガイドの李さんは世界初の国際結婚というし、古代史三人組の話が新鮮に聞こえたのか、ノートを全部コピーさせてくれとまで言われました。韓国の歴史教育とは違うことを察知したのかな？

かつて韓半島と倭の間に国境などなかった。海路で人と文化が日本にやってきた。

ホテルから海岸まで歩き夕日が沈んでゆく時、しみりした気持ちで“東海”を眺めたことを思い

出します。すぐそこにある対馬にいつかは行ってみよう！

公州市 武寧王陵を訪ねました。栄山里古墳群の一つで未盗掘。専門的なことは専門家に任せ、私は鎮墓獸に興味がありました。“ちんぼじゅう”と気色悪い名前ですが王陵を守護しています。国立扶余博物館に子供たちが描いた鎮墓獸が展示されており、最優秀賞の写真は撮りました。社会見学で全員に鎮墓獸の絵を描かせるんだ！

武寧王の棺は日本にだけ自生している高野槇でつくられており、それは当時、日本の天皇家だけ使える木材。百済王家と天皇家の深い関係性を表しています。

“韓国との縁”とは桓武天皇の生母高野新笠のことかな？桓武天皇の詔「百済王らは朕が外戚なり」後宮には百済王氏出身の女性が9人も入っていたそうですね。

加唐島で生まれたので斯麻ともよばれ、日本書紀では「嶋王」

昆支の息子が武寧王。昆支は応神天皇かもしれない。昆支は継体天皇かもしれない。

武寧王の娘が継体天皇の嫁さんの手白香皇女。親と孫娘？

成り代わり説満載で初心者にとって混乱する領域です。

後日、確認をしました。今上天皇が述べられたこと「私自身としては、桓武天皇の生母が百済の武寧王の子孫であると、続日本紀に記されていることに韓国とのゆかりを感じております。武寧王は日本との関係が深くこの時以来、日本に五経博士が代々招聘されるようになりました。また、武寧王の子、聖明王は日本に仏教を伝えたことで知られております。」

扶蘇山のロッテリゾートに泊まり白馬江の川下り。「落下岩」と崖の岩に朱書きしてある。百済が滅びた日3,000人の女官が白馬江に身を投げた。流した血で赤く染まった。

白村江の戦いをここで眺めたような気分になります。

定林寺は百済滅亡の時、消失したそうです。1028年に重建された。古代史ノートにおかしなことが書いてあります。「五層石塔の塔身部に唐の蘇定方の戦勝を綴った【大唐平百済国碑銘】を刻む」羅唐連合軍にやられた百済の寺にこれが？

統一新羅になったからか？しかし、高麗時代の再建であるし・・・勘違いだろうか？

慶州市 「石仏の粹は石窟庵に、石塔の粹は仏国寺に」らしいですが、どの地も戦乱で破壊尽くされたのか遺跡、遺物が少ない。山にも木がない。森がない。私の印象です。

新羅仏教芸術の頂点とのこと。多宝塔と釈迦塔のイラストがノートに残されています。石窟庵で鐘を突く。やはり慶州は桜のころに訪れるのがいいのでしょうか。脱線しますが、日本統治時代にこの地にソメイヨシノを植えたのでしょうか。それが面白くなくて、2050年までに全部抜いて済州島原産の王桜に植え替えるそうです。もう、こんなことは終わりにしたいものです。全羅南道で前方後円墳が見つかるとう墳部分を削ってしまう。こんなこともやめてほしい。

次は王陵巡り。キム・チュンチュよりキム・ユシンのお墓の方が立派に思えました。王家ならば「陵」なのにユシンの墓標は「墓」と書き換えられており、金官伽耶の王家は新羅の王家ではないということでしょうか。

善徳女王のお墓は外れたところにあり今回はパス。皇南洞古墳群の天馬塚の前で記念撮影。帰りの飛行機の新聞には朴槿恵新大統領の組閣名簿が載っていました。ハンゲルですので一行も読めません。2013年2月18日のことです。前月の新聞は「政権引き継ぎ委員会は縁故を排除。全羅道出身者も4人起用」と報道していました。何を言っているのか分かりませんが、高麗の王建が(後百済を滅ぼして)この地域の出身人材は登用してはならないとの遺訓を残し、これが発端となり全羅道は悖逆の地域という汚名を着せられ、千年の時を超えていわれなき差別が現代まで続いているそうです。

あ～そうだったのか！ 報道の表現と歴史の真相がつながりました。

高霊市 ここは大伽耶の地。釜山から金海を抜け 120 kmで飛ばして 2 時間で高霊の「大伽耶博物館」に到着しました。あっ漢字で書いてある。人偏のない加だ！

82 歳の先生が胸に赤い花を差して登場。

年の割には粹な姿でこの日は「両親の日」ということでした。

伽耶の焼き物は首がくびれており、新羅物より色気がある。遺跡からは北方系の馬具類が出る。そんな話を池山古墳群の大伽耶王陵展示館で聞きました。伽耶大学校内の高天原公園を歩いていくと、とんでもないものが目に入ってきました。【高天原故地】【高天原居住神之系図】【弁辰弥烏邪馬臺】などの石碑と【天照大神】の石像。クラクラするような異様な光景でしたが、天照大神石像との記念写真は撮りました。ハンゲルでルビがふってあり邪馬臺はヤマトでした。今から 40 年ほど前、筑波大学の教授と伽耶大学校の総長の意見が一致し高霊を高天原に比定したそうです。胡散臭さを感じるのは私だけでしょうか。私の知識が足りないのかもしれませんが、『日本書紀』現代語訳のあとがきに次のことが書かれていました。「山彦と豊玉姫の間にウガヤフキアエズノミコが生まれ、ミコと玉依姫との間に生まれたのがカムヤマトイワレヒコ(後の神武天皇)

産室の屋根をウの羽で葺くのに、それが葺き終わらぬうちに子が生まれたので、ウガヤフキアエズノミコと名付けた。

そして韓国の古代史研究者によると、三韓以前に「伽耶」があり韓国固有語で、上伽耶(ウカヤ)・下伽耶(アラカヤ)と呼ばれる兄弟国があった。天孫降臨といえば、天照大神がニギギを天下らせるといふふうを受けとっていることが多いが、書紀の記述によれば、主宰者は高皇産霊尊(たかみむすびのみこと)であり、ウガヤの都の高霊の二字の間に「皇を産む」の文字を挿入したのが、高皇産霊尊であるのをみると、この命名も無縁とは思えない。」なるほど、ごもつともですが不平等に聞いてみたい。

ソウル どの地にも立派な博物館があり、金海には国立博物館、釜山にも釜山博物館。

そしてソウルではソウル歴史博物館、国立中央博物館、漢城百済博物館、戦争記念館などがあちこちを巡りました。韓国には韓国の視座・視点があるということにしましょう。

ソウル歴史博物館で奇怪なるものを見ました。併合後の「京城の様子」展示室は檻の中にあり、日帝とナチスの旗が並び、韓国旗のデザインも何か違う。

漢字、カタカナ、ハングル交じりの新聞など日本では見たことがないものがありました。

「安重根義士記念館」なるものが、南山のセブンラックカジノを登っていくとあり日本人ツアーは絶対行かない所です。伊藤博文を暗殺した“義士”の立像があります。

百濟古墳群は 1988 年ソウルオリンピックのスタジアム建設中に発見され、江南地区にあります。余りに最近のことであることに驚きます。

6. 奈良古代史旅行——大和は国のまほろば

奈良への旅行は三つのグループがあります。

一つ目はハノーバー会の 100%見物旅行。二つ目は飛鳥川師匠との目的を絞った師弟旅行。三つめは朝日カルチャーの現地視察の勉強旅行です。こんな思い出があります。

一つ目。ハノーバー会とは 1999 年ドイツのハノーバーメッセの視察で知り合い、以来 20 年以上のおつき合いしてきた仲間で毎月1回の飲み会、年に 1 回の国内旅行と海外旅行を続けてきました。名古屋からは近場の高山、下呂、上高地、立山、乗鞍、金沢、諏訪など温泉ゴルフ付きで楽しんできましたが、ひとり古代史好きが生まれたので後半は京都、奈良、福岡、壱岐、釜山、慶州に行くようになりました。2011 年に長谷寺を訪れた時、アジサイはすでに枯れておりがっかりしました。そして歩いて桜井茶臼山古墳に行こうということになりましたが、日差しが強くなり疲れ果て諦めました。後で、「埋め戻されて何も無いよ」と聞かされ、計画なしのお気楽旅そのものとわかりますね。

常宿は桜井市の「皆花楼」。その後の興味の対象となるひとつの発見がありました。

桜井市出雲という地名を発見。ここに出雲か？ 国譲りと関係があるのかな？

人が移動しないとこんなことは起こりえないし・・地名に興味をもった瞬間です。

これも師から頂いた石渡信一郎の『日本地名の語源』を手にするのはずっと後のことですが、今現在も私には理解できるだけの土壌がありません。

二つ目。師との古代史旅行 師との旅行は楽しく、そして謎が増えていく旅でした。

- ・高松塚古墳でプロジェクションマッピングの見物。盗掘で失われた朱雀が舞う。
- ・興福寺で薪御能の見物。金春流「葛城」を鑑賞する。役行者(小角)が葛城の神一言主に架橋を課した。・・古代の何かを伝えているのかな？さっぱりわかりません。
- ・見瀬丸山古墳の見物。明治には天武・持統天皇陵として比定されていたそうですね。
- ・亀石・亀形石造物・酒船石の見物。仏教か道教かゾロアスター教か齊明天皇に聞こう。
- ・益田岩船の見物。竹林の山をかき分け辿り着き側面のギザギザからよじ登る。一望の後、どうにも降りられなくなり岩の斜面を転がり落ちる。還暦を過ぎたら無理はしない。
- ・出雲の見物。念願叶い2泊3日に出雲大社に。全行程 1.150 km。福岡の人が能登に行くような感覚です。古代史に興味ある人は出雲と吉備は外せません。古事記の解説本は数多あれど、胆力のない私は『レッツ!!古事記』五月女ケイ子で把握する。最近では、伊耶那岐命・伊耶那美命から天照大御神・月読命・須佐之男命から大国主神の流れ、邇邇芸命と木花之佐久夜毘売から神倭伊波礼毘古命までなんとなく頭に入ってきましたがそのうち忘れるでしょう。子供のころ母親がジム、スイゼ、アンネ、イトク、コウショウ、コウアン、、、と語っていました。今思えば天皇名を全部覚えて

おけば歴史をもっと深く理解できたのかもしれませんが。結界をくぐり、黄泉比良坂を歩き黄泉の国に行きました。千引岩もありました。出雲大社の中に素戔社があり摂社ではないそうですね。

祭神はスサノオ。蘇我氏と出雲の関係は？

荒神谷遺跡から銅剣 358 本が発見され、異常な数はどう解釈すればよいのでしょうか？

銅剣に刻印された×は何を意味しているのでしょうか？

土偶は異様で、妊婦で、すべて破壊されている。どうしてでしょうか？

妻木晩田遺跡ではヒトデのような四隅突出型墳丘墓なるものを見ました！

二晩続けてバグロの煮、バグロの焼きを食し大満足。落ちは駅前にあった

スナック「卑弥呼」に行ったことです。センスのいいオーナーです。

帰路にちょっと岡山の造山古墳に寄る。宮内庁に無視されており、全長 350mもある大前方後円墳なのに、出雲の大国主や九州の神武東征物語に比べるとこの大王様は存在感が小さい。舟形石棺を見物していた時、一人旅の古代史おじさんが阿蘇のピンク石の話聞かせてくれました。初めて聞く話でしたが重要度は高そう。瀬戸内海の水運を押えている吉備は大きな勢力であったと思います。吉備津神社に寄って帰る。

番外編 社員旅行で金沢に行った時、翌日の行楽を琵琶湖東岸組と西岸組に分けました。東岸組は長浜の黒壁スクウェアで近江牛を食べたり、地ビールを飲んだり、ガラス細工を買ったりとても楽しかったそうです。西岸組の目的は“継体天皇の足跡を辿る”。

高島市の安曇川(あどがわ)で降りて、鶴塚→安閑神社→胞衣塚→天王橋→鴨稻荷山古墳と巡りました。この日は7月25日、炎天下の中を歩き回り熱中症で倒れそうになるくらい頑張ったのに、掘立小屋の中に家形石棺を見たくらいで成果は少なかった。おまけに神戸駅の信号事故で湖西線が運休となり長浜に戻れず、京都まで行き新幹線で名古屋まで帰るはめになりました。西岸組は私ひとりで、天罰が下ったのでしょうか。

番外編 社員旅行で今度は大阪グルメ。強引に全員を仁徳天皇陵の見物に連れていく。のち世界遺産となり一矢報いる。「大山古墳がああ時の仁徳陵だったんだよ。一緒に行った社員はわかっているのかな？」

番外編 福井で足羽神社と足羽山の継体天皇の立像を見物する。顔が大きいことに驚く。継体天皇は越の国から来たというのがこのあたりか？…継体天皇はどうも苦手感があって深く入れない。応神天皇五世孫とか六世孫とまで書いてあるものがあり、五世で皇統ギリギリ？なのに六世となると？系図で勘定すると6番目。深入りはよそう。

三つめ。名古屋の朝日カルチャーで古代史講座を受講することにしました。

余りに知識が断片的で脈絡なく、迷路を彷徨うがごとくの状態だったからです。

資料は日本書紀。毎月一回奈良の現地に赴き先生から講義を受けます。資料は何も残っていませんが写真とメモだけはあります。古墳に入り、神社仏閣を巡り、古道を歩き・・・日本書紀の講義を聞き久しぶりに勉強をした感じです。こんなところに行きました。

「檜隈寺跡」「於美阿志神社」「キトラ古墳」「市尾墓山古墳」「市尾宮塚古墳」「岡宮天皇陵」「東明神古墳」「マルコ山古墳」「メスリ山古墳」「茶白山古墳」「赤坂天王山古墳」「高円山石位寺」「舒明天皇陵」「舞谷古墳」「秋殿古墳」「兜塚古墳」「コロコロ山古墳遺跡」「上之宮遺跡」「大神神社」「八嶋陵」「嶋田神社」「新薬師寺」「百毫寺」「宅春日神社」「春日大社」「景行天皇陵」「崇神天皇陵」「箸墓古墳」「相撲神社」「櫛山古墳」「黒塚古墳」「長岳寺」「西殿塚古墳」「西山塚古墳」「夜都伎神社」「東乗鞍古墳」「大和神社」「内山永久寺跡」「峰塚古墳」「西山古墳」「石舞台古墳」「塚穴山古墳」「見瀬丸山古墳」「牟佐坐神社」「八咫鳥大明神」「菖蒲池古墳」「鬼の俎・鬼の雪隠」「野口王墓古墳(天武・持統合葬陵)」「吉備姫王墓」「梅山古墳」「石塚古墳」「勝山古墳」「矢塚古墳」「東田大塚古墳」「甘樫丘」・・・熱量マックスの時です。

“宮内庁は西殿塚古墳の被葬者を古墳の年代よりも200年もあとの六世紀前半の継体天皇の皇后、手白香皇女にあてているのだ!! おかしい!! どう考えても西山塚古墳が手白香皇女の古墳であろう。” あの頃は一所懸命に学んでいました。

天智、天武・持統陵の比定だけが正しいとは今も学会の見解ですか？

心に残る一枚の写真があります。十市皇女と弘文天皇が彫られた石像の写真です。

余りに二人のお姿がいいので、木彫りをしようと思いつき立ち、たまたま隣が家を建てていたので大工さんに木を貰い、岐阜県関市まで彫刻刀を買いに行き、木彫りに取り掛かりました。絵付けをして部屋に飾りました。結果は「こんな下手くそを部屋の中に置くな」新薬師寺の入り口の右横にそれはあります。ここでまたビックリしました。十市・弘文の前に葛野王、池辺王、淡海三船と岩が並んで名前が書いてあります。淡海三船が漢風諡号を考えたことは知っていましたが、大海人と額田王の末裔だったのか！

横道にそれますが、父の米寿のお祝いで由布院温泉と黒川温泉に行きました。連れて行ったのは宇佐八幡と高千穂峡、天岩戸神社などです。戦前の小学校に通った両親なので選択に間違いはないと思うのですが、ちょっと後ろめたい気持ちが残っています。宇佐八幡神託事件の舞台は私が訪ねたい所の一つでしたので、両親に行きたい所も聞かず・・・。「道鏡を天皇にすべし」という神託がもたらされたので和氣清麻呂が派遣され謀を見破った。しかしこの報告を捏造と思い称徳天皇は怒った！別部磯麻呂と改名させた。その後貴族の反発もあって結局、道鏡は左遷されて下野で生涯を閉じることに。称徳天皇は道鏡に籠絡されていて、一つ間違えば法王が天皇になって日本の歴史が変わっていたのかもしれないですね。道鏡といい玄昉といい僧は凄いですね。

そういえば観世音寺のそばの畑で玄昉の墓を偶然に見つけました。『海人と天皇』を読んでいなければ目にも入らなかったでしょう。宇佐神宮の御祭神は応神天皇、比売大神(真ん中)、神功皇后。比売大神とは誰でしょう？ 天照大神だ卑弥呼だと聞こえてきます。ゆえに卑弥呼の墓はこの下に？ 宇佐八幡を見たあと移動の途中、峠の畑で異様なものが目に入りました。看板には“円形

分水の歴史”。川がないのに真ん中から水が湧き三方に分配しているのです。ちょっと待て！これは高句麗鍛冶屋村と同じものではないか！高句麗鍛冶屋村の円形分水は水車で水を供給し三方に流す構造。時代が違うのに不思議です。土地勘がなく「音無井路土地改良区」と看板に記されていました。鍛冶屋村はウォーカーヒルのそばです。この九州贅沢旅行が最後の旅行と考えていましたが、親父が「天橋立を見て蟹が食いたい」と言い出して連れていったのが最後でした。いつかは行かねばと思っていた籠神社にもタダで行けました。元伊勢で天照大神と豊受大神と一緒に住まわれたのは日本でここだけと知る。

親父の若き頃、天橋立は一大観光地で熱海やここに慰安旅行で来ていたのでしょう。

晩年の介護は終わり、両親は他界しました。95歳と89歳長生きしました。

そして、福岡への移住を決意したのは2年前です。奈良は十分楽しんだ。後は福岡しかない。古代の日韓交流の記憶が残るこの地を遊ぼうと考えた次第です。

古代史の地を巡る、この10年の旅は私の極上の遊びだったのかもしれない。

飛鳥川師匠からは「古代史聞きかじり」「東アジアの戦乱の中で」「大伽耶を訪ねる旅」

「古代人の懐かしき地・釜山を訪れるにあたって」多くの書き物を頂きました。

鳥山氏からは不比等関係のレポートを頂きましたが、最も重宝したものは会社で部下に指示して書かせた「WELLCOMELASVEGAS」という自分の経験を基にしたルーレットの作戦集です。私の宝物ですね。ちなみに、私の定年を待ち構えていたように氏から誘いがあり、氏のご夫妻とベガスで四日四晩カジノを楽しみました。

7. 九州古代史旅行

2021年4月福岡に移住する。

師との約束で“魏使の逆コースを辿りたい”ということがあります。奴国、不弥国、伊都国、松廬国、一支国、対馬国、狗邪韓国らしき所は行きましたが、まだ一気通貫で旅をしていません。そして西都原古墳はお前に任せたとと言われておりますが、コロナ禍の自粛2年半は誤算でした。

師は福岡の出身ですので、師の盆帰りの時ニギハヤヒ第二弾で竹原古墳の後に天照神社を訪れました。祭神は天照国照彦天火明櫛玉饒速日尊ほか天児屋根命まで書いてありました。中臣・藤原の遠祖ですからおかしくはないのですがよくわかりません。話を聞くまで天照大神をお祀りしていると思っていましたが……。ちなみに第一弾は3年前に松原神社、大神神社、唐古・鍵遺跡を回り、翌日に矢田坐久志玉比古神社でプロペラを見て、磐船神社で巨岩を見て、石切劔箭神社でお百度参りを見て帰ってきました。ここでの阿吽が興味を引きましたが、いずれにせよニギハヤヒを語るにはまだまだ勉強不足です。物部の祖は出雲からやってきたのか北部九州からなのか？

この福岡の地は古代史の宝庫とは聞いていましたがこれ程とは。まずは闇雲、手当たり次第に遊びに行きました。福岡にお住まいの方が羨ましい。この町は楽しい。愛知県では豊田市に行けばトヨタ自動車、刈谷市に行けばデンソーにアイシンに豊田自動織機にトヨタ紡織。海に行けば愛知製鋼に大同製鋼、新日鉄。名古屋駅前にはトヨタのミッドランドスクウェアがあり隣は豊田通商のビ

ル。郊外に足を延ばせば豊田合成、豊田工機(ジェイテクト)、トヨタ博物館にトヨタスタジアム。工場群が集積し、福岡と全然違うのです。工場の敷地は広大で道は迂回して伸びており、豊田市では何度も迷子になりました。商業の街福岡とは全然違うのです。ブラザー、リタケ、星崎電機まだまだあります。工業の地域なのです。かつて、拳母市が豊田市と名前まで変えました。

過去の記憶が町村合併でドンドン消えてゆくのも残念でなりません。

さて手当たり次第ですが、まずは北部九州一帯の見物です。

唐津城と虹ノ松原。可也山の梅林と板付遺跡の弥生の田んぼ。大塚川添遺跡に平原遺跡。竹原古墳に王塚古墳。東峰村の小石原焼と日田の小鹿田焼。門司レトロと旦過市場。宗像大社に新原奴山古墳群。呼子のイカに八女のお茶。嘉麻の憶良に田川の作兵衛。筥崎宮と香椎宮。名護屋城と小倉城。植木のスイカにうきはのブドウ。天領日田の塩ようかん。武雄温泉に裕徳稲荷。原鶴温泉に脇田の温泉。鴻臚館と市博の金印。久留米の河童に吉野ケ里。奴国の春日に不弥の宇美。太宰府に行けば九博へ。田主丸に行けば大塚古墳と石垣神社、月読神社もありました。田川に行けば採銅所。宇美に行けば光正寺古墳天草・島原鉄炮町。コロナ禍の自粛中によく出かけてしまいました。

年金生活者には時間はタツプりあり、“幸せな老後は脚力から”ですね。

一年の各地見物で土地勘がついてきました。点の行動から域にシフトしようかと。

こちらに来て、熊本、宮崎、鹿児島は福岡とは違う色合い、匂いを感じています。

何かわかりませんが地名も違う感じがします。

まずは不思議な地名から。

古代、筑前や豊前の地は新羅からの渡来人が人口の80%を占めていたと聞きます。

今年、女子プロを見に行き和白コースが不思議に思いました。わじろ？

新羅の和白会議を善徳女王で見たけれど、この和白と関係があるのだろうか？

採銅所もしかり。この地は炭鉱の町なのに？ さいどうしょ？

香春岳の一の岳からは現在も石灰石が掘りつづけられており、近隣には新羅の神を祭る香春神社がある。「豊前国風土記」には二の岳から銅が採れたことや新羅からの渡来人がいたことが記されていると、香春町教育委員会の広報に書いてありました。

山師や石工やいろいろな伎人がいて、奈良の大仏様は完成したのでしょうか。

宗像の神湊 高木彬光はここに魏使が上陸したと推理しましたが、魏使でなくとも半島からたくさんの人が来たのでしょうか。宗像の遺跡から馬韓系や大伽耶系の土器が出てくるそうですね。戦乱に明け暮れ滅びようとする百済や伽耶諸国から王族や民が逃げるところは北部九州沿岸しかないのですから当然と思えるのですが。それにしても、神の港のこうのみなど？

車窓から、埋金、金出、金立、金田、金辺など目に入ります。金とは何でしょうか？

松浦、高良、始良、香春、太良、多田羅、多良。“ら”とは何でしょうか？
原をバルと読む地名。四ツ角、六ツ角も地名。愛知県からくると異常な違和感です。

「野間の四ツ角にいる。四つ角なんかいっぱいある！ どのの？ のまだ！」

笑えないような話で最初は腹が立ちました。交差点のことなんですね。

まずは地名に感じた不思議と謎ですが、九州古代史旅行は始まったばかりでこれからはもっと通史まで広げて楽しもうかと思っています。

九州には神話、邪馬台国、古墳、密貿易、元寇、お城、篤姫、明治維新、特攻隊、祭りなど歴史の宝庫です。

種子島でロケットの打ち上げを見て、開聞岳に向かってフルショット。

人生の終末が健康であればと願うばかりです。